

ニュージーランドの大学入学者 選抜制度

研究開発部試験制度研究部門 山 村 滋

はじめに

本稿では、ニュージーランドの大学入学者選抜制度の概略を述べたいと思う。同国において、大学に入学するためには、以下に述べる資格を取得する以外にも、いくつかの道がある。また、20歳以上の者には大学入学資格が自動的に与えられる。ここでは、中等教育を終えたあと、すぐに大学へ進学することを希望する者がたどる、最も一般的な大学入学ルートについて述べることにする。

1. 教育制度の概略と大学

ニュージーランドでは、6歳から16歳までが義務教育となっている（1997年1月から17歳となる）。6歳から12歳までが初等教育であり13歳から中等教育となる。後期中等教育段階（Senior Secondary Education）とは、15～17歳段階をさす。初等・中等段階の学校は幾つかの種類があるが、最も一般的なのは、5歳から10歳までの初等学校（Contributing School とよばれる）、

11歳、12歳の2年間在学する中間学校（Intermediate School とよばれる）、13歳以降の中等学校（Form3-7 School とよばれる）である。

高等教育機関は、大学（University）のほかに、国立のポリテクニク（Polytechnic）、同じく国立の教員養成カレッジ（College of Education）がある。この他に、学位コースを提供することもできる私立の高等教育機関（Private Training Establishment）がある。大学の修業年限は多くの学部で3年である。大学は、我が国の本州と九州を合わせたほどの国土に国の人口が少ない（1993年末で約350万人）こともあり、全国でわずかに以下の7つの国立大学があるにすぎない。なお、最低入学年齢は16歳である。

オークランド大学
（University of Auckland）
ワイカト大学
（University of Waikato）
マッセイ大学
（Massey University）

ヴィクトリア大学
（Victoria University of Wellington）
カンタベリー大学
（University of Canterbury）
リンカーン大学
（Lincoln University）
オタゴ大学
（University of Otago）

これらの大学はいずれも商学、理学、文学部を持ち、うち5つの大学が法学部を設置している。また、各大学がそれぞれに専門分野を有している。例えば、医学部はオークランドとオタゴ大学のみにしか設置されていない。また、首都ウェリントンにあるヴィクトリア大学は、その地理的な環境により、行政学、法学、政治学、社会学の分野での研究に優れていると言われている。

高等教育への進学率は、その入学年齢が一律ではないので、同一年齢層に占める割合という形でのデータは入手できなかったが、ニュージーランド文部省提供の資料によると、15歳から18歳までの中等学校離学者（約55,000人）の45%が高等教育で学んでいる（1991年）。22%が大学で、21%がポリテクニク、2%が教員養成カレッジである。

2. 大学入学資格

大学入学資格を得るためには、ニュージーランド大学入学資格・奨学金試験（New Zealand University

Entrance, Bursaries and Scholarships Qualification Examination: NZUEBS 試験）を受験する必要がある。この試験は、後期中等教育の最終段階すなわち、17歳で普通受験する。

この試験を実施・運営しているのが、ニュージーランド資格当局（New Zealand Qualifications Authority: NZQA）である。NZQA は、1989年教育法に基づいて1990年に設置された、政府によって財政的に維持される機関である。その機能は、中等及び中等後の資格の水準に責任を負うこと、そのための試験の運営・実施、大学入学のための共通の教育水準を維持すること等である。スタッフは約150名である。

試験問題は、試験官（Examiner）が、調整官（Moderator）と協議しながら作成する。この試験には、生物学、化学、経済学、歴史、物理、地理、ラテン語、日本語、数学、等30科目が用意されている。また、ニュージーランドの先住民であるマオリ（Maori）のマオリ語及び文化に関する科目（Te Reo Rangatira）も設定されている。

試験は、11月下旬の2週間にわたって行われる。1科目あたりの試験時間は、3時間である。科目によっては、1回の試験だけでなく、各中等学校の教員による内部評価と合わせて、点数が決められる科目もある。例えば、語学関係の科目は20%が内部評価であり、

音楽では60%が内部評価である。試験の採点は、中等学校教員が行う。そして、試験の結果は1月20日ごろに公表される。

成績評価は5段階のグレード(AからE,でAが最上位)及び100点満点の点数、の2つの方法で行われる。グレードと点数の関係は表のようである。

表 NZUEBS 試験の各科目のグレードと点数の関係

グレード	A	B	C	D	E
点数	66-100	56-65	46-55	30-45	0-29

NZUEBS 試験の4科目、もしくは好成績順の5科目の合計点が250点から299点であればニュージーランド・バーサリーBレベル(New Zealand Bursary B level)が与えられ、300点以上ならばニュージーランド・バーサリーAレベル(New Zealand Bursary A level)が与えられる。これは、この試験の名称が示すとおり、奨学金の受給資格ともなるわけである。

大学入学資格は、①3科目のすべてでグレードCを取得し、なおかつ16歳段階の中等学校修了上級資格(Higher School Certificate:HSC)を取得していること、もしくは、②バーサリーのAまたはBであることである。なお、①に関しては、一度に3科目ともグレードC以上を取得する必要はな

く、数年にわたってもよい。また、このような大学入学資格の授与の条件は、上記の7つの大学が構成員であるニュージーランド副学長協議会(New Zealand Vice-Chancellors Committee)が決めているとのことであった。

なお、16歳段階のHSCは、各中等学校の内部評価に基づいて発行されるので、実質上、16歳すなわち義務教育終了年齢まで在学すれば全員に授与される。つまり実質上はNZUEBS試験の3科目でグレードCであれば、大学入学資格が得られると考えてよい。NZUEBS試験には、1994年度の場合、24,558人が受験し、そのうちの74.7%が大学入学資格を、26.2%がAバーサリーを、29.9%がBバーサリーを取得している。また、科目別に受験者の多い科目は、英語14,531人、数学(統計を含む)12,815人、数学(微積を含む)9,159人、生物8,957人、物理6,476人、等であった。

3. 選抜を実施する学部・コースと非選抜(Open Entry)の学部・コース

ニュージーランドの大学には、スタッフや設備等の関係から、定員があり選抜を行う学部・コースと、定員のない学部・コースがある。従って、定員のない学部・コースに入学するには、大学入学資格を取得すればよい。換言すれば、大学入学資格を取得すれば、

どこかの大学のいずれかの学部・コースに入学できることになる。これに対して、定員のある学部・コースに入学するには、大学入学資格試験において、好成績でなければならない。例えば、ニュージーランドで最大のオークランド大学では、1996年度の場合、医学部では定員は115名となっている。また、商学部の商学コースでは、定員は870名である。これに対して、文学士(Bachelor of Arts:BA)、と理学士(Bachelor of Science:BS)のコースでは、必ずしも希望の科目が履修できるとは限らないが、入学定員は設けられていない。ヴィクトリア大学でも、BAとBSのコースでは、大学入学資格があるかぎり、全員入学できる。一方、商学・経営学や法学のコースでは入学定員の制限があるとのことであった。

選抜は、各学部やコース単位で行われる。オークランド大学の医学部の場合、面接も実施される。面接を受けるためには、1995年度の場合、NZUEBS試験でバーサリーを取得し、かつ、389点以上が必要であった。なお、この医学部には、600人以上が志願しているとのことであった。

また、商学コースでは、1996年度の場合、280点以上のBursaryであれば、入学できるであろうと、オークランド大学の発行する入学案内書には、述べられている。志願者約1,800人に対し

て、約900人が、商学部合格、法学部では、1,000人以上が志願し、約220人が合格するとのことであった。

なお、入学に当たっては、NZUEBS試験の特定の科目の取得を大学は要求していない。換言すれば、上記の30科目はすべて同等に扱われているのである。しかしながら、実際上は、中等学校段階で、大学入学後に必要な知識・技能等を考慮して、接続がスムーズにいくような科目の履修・受験が、指導されているとのことである。

4. 志願から合格までのプロセス

ニュージーランドでは、新年度は2月から始まる。上述のごとく、入学の前年の11月下旬に試験を受ける。そして、1月の初旬ごろまでに各大学に志願票を提出する。大学によって受付の時期は異なる。オークランド大学やヴィクトリア大学では、締切りが早く、12月中旬に志願が締め切られる。そして、1月20日ごろに公表されるNZUEBS試験の成績により可否が決定する。

オークランド大学の志願票は1996年度の場合、A4判10頁のものである。ここには、氏名、住所、エスニック・グループ(Ethnic Group)、在学中の中等学校名、取得資格、NZUEBS試験の受験番号、志望コース等を記入する。

オークランド大学では、志願票の

データをコンピュータに入れて利用しているとのことであった。この大学には、各志願者が有資格であるか否かをチェックするアドミッション・センターが設置されている。その後、データは各学部へとまわり、合格者が決定される。

また、ヴィクトリア大学の志願票は、A4判5頁のものである。ここには、オークランド大学のものと同様に、氏名、住所、エスニック・グループ、在学中の中等学校名、取得資格、NZUEBS試験の受験番号、志望コース等を記入する。

なお、選抜は、各大学ごとに独立して行われるため、7つのすべての大学に志願することも可能である。実際は大学入学志願者の4分の1位が、2校から3校の大学へ志願しているだろうとのことであった。

なお、各大学単位では、例えば、オークランド大学の場合、志望優先順位を付けて3つのコースまで志願することができる。また、ヴィクトリア大学では2つまで志願できる。オークランド大学では、1995年度の場合、パートタイムの志願者を含めて、約29,000人が志願し、24,600人が合格したとのことであった。合格率は、コースによって異なるが、全体でみると約80%とのことであった。また、ヴィクトリア大学では、3,500人から4,000人程度が志願

し、ほとんどが合格するとのことであった。

おわりに

ニュージーランドにおいては、大学入学資格は、NZQA という、中等学校や大学とは別の機関の運営する試験によって授与される仕組みになっている。このように、大学とは別の組織が、大学入学に関する学力水準を維持・管理している点は、イギリスの試験実施団体 (Examining Board) による学力水準維持方式と基本的に同じように思える。

しかしながら、大学入学資格取得に必要な科目は、限定されていない。NZQA が認定した30科目のどれを選択することも自由である。選抜が実施されるコースでも、どの科目を履修したかは問われていない。このような私たちで中等教育が尊重されている点がニュージーランドの大学入学者選抜制度の特色の1つと言えよう。

NZUEBS 試験は、大学入学資格の授与、換言すれば、大学入学のための最低の基準を与えると同時に、特定の学部・コースのための入学志願者選抜の機能も持っている。冒頭で述べたような、20歳以上の者には大学入学資格が自動的に与えられるという、成人に対するオープン・エントリーのポリシーのもとでは、20歳未満の者にも一

定の条件によって全員に大学入学資格が授与されるという方法が変更されるような事態にはならないであろう。このような、オープン・エントリーのポ

リシーと、定員制から来る選抜の必要性をどのように折り合いをつけていくのか、興味深いところである。